

昨年 12 月 6 日に急逝された T.K.氏のお年賀状を手渡されました。すでに書き上がって、投函する予定でしたが、彼は心不全により肺炎を発症し、アッという間に亡くなられたのです。葬儀の日に奥様より頂きました。T.K.氏の絶筆となりました。

これまで T.K.氏は版画が趣味で、詩情あふれる作品を手掛けて来られ、毎年お年賀状を楽しみに待っていたものでした。夫は T.K.氏を画伯と呼んでいたくらいです。今回はこれまでと全く違って、一行目に室生犀星の望郷の詩の一節が記されていました。なんとテーマはミソサザイでした。



ふるさとは遠きにありておももの

例えば みそさざいの 勇姿

♪ (一) イッピー (二) ニイトク (三) サンピィ (四) シーナソ
(五) ゴーケン (六) プンブク (七) チクリンチャン

これがこげ茶色の小さな渡り鳥の数え歌です。この勇姿こそ 七十数年前 冬の 毎朝 家の近くで鳴いていたのを思い出します。

令和三年 正月

T.K.氏の故郷は富士山の山影で、日照時間は限られるとも聞いていました。堂々たる豊かな大自然で幼少期を過ごされ、ミソサザイがお友達だったのでしょうか。ミソサザイを私は見たこともなく、鳴き声も知りませんでした。たくさんの種類の鳴き方があるようで、T.K.氏はそれを覚えておられ、その鳴き声とともに、姿の勇ましさを褒めて、「勇姿」と、二度も書かれておられます。さっそく調べてみました。

全長が約 11 cm 体重 7-13g。 … なんと小さいことか！

茶褐色で雌雄同色である。体つきは丸みを帯びており、尾は短い。… 地味だなあ。

よく短い尾羽を上にした姿勢をとる。… これが勇姿か！

茂った薄暗い森林の中に生息し、特に溪流の近辺に多い。… これでは気付く人は少ないはず。

<https://www.youtube.com/watch?v=QiqX2LbBcFk> … YOUTUBE でチェックしてみました。なるほど。

T.K.氏が、人生の黄昏に思い出す懐かしい故郷の姿、それは可愛らしい、丸々とした姿で、元気一杯に鳴いているミソサザイだったのですね。彼は人里離れた、少し寂しげな所が遊び場であっても、誰にも邪魔されずに、秘密基地のように楽しめる自然の中で、ミソサザイの姿とさえずりに出会ったのでしょうか。そして惹きつけられたのでしょうか。幼い少年の目と耳と心で、しっかりとその「勇姿」を受け止めたのでしょうか。

賀状に直筆で丁寧に書き記されたのは、なぜでしょうか。「ミソサザイのように、小さくてもいい、地味でもいい、目立たなくてもいい、精一杯に歌い、生きることは楽しく、嬉しいことなんだよ」と、教えてくださったのではないかと思っています。鳥は ♪ ピース ♪ ピース ♪ と鳴くとパブロ・カザルス氏が言っています。もう T.K.氏にはお会いできないのが、残念です。これからはミソサザイのような小鳥の勇姿と鳴き声に、彼の姿を重ねて、思い出していきましょう。